

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2794900023		
法人名	社会福祉法人成和会		
事業所名	グループホーム菊水苑喜志の郷		
所在地	大阪府富田林市桜井町2丁目1835番地		
自己評価作成日	平成 25年 2月 15日	評価結果市町村受理日	平成 25年 5月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JkyosyoCd=2794900023-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 25年 3月 8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりの尊厳を大切に、その人がその人らしく生活ができるようにスタッフが常に寄り添い共に歩んでいける施設を目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

30年近い歴史を持ち地域に貢献してきた社会福祉法人が運営する2ユニットのグループホームです。当ホームは3階建て2・3階部分に設置され、1階には小規模多機能事業所があります。また、近くに同法人特養があり連携した運営を進めています。当ホームは郊外に位置し、近くには公園や神社、市民会館、幼稚園等があり、地域交流を進めやすい環境となっています。ホームでは利用者の重度化や利便性を考慮し、機械入浴装置や居室にトイレを完備するなどの工夫をしています。職員は利用者の意向を大切にする支援の一環として、利用者の好みを大切にしたい食事づくりを行い、いくつかのメニューから副食を選べるようにしています。また、音楽療法を取り入れることで利用者の笑顔や思いを引き出す効果も生まれています。非常災害対策に力を入れ、地域の消防団の協力を得たり、消防署と連携して防災避難・救出訓練を行っています。職員は「菊水苑喜志の郷新聞」を発行し、ホーム運営を分かりやすく知らせています。行政との連携も良く、今後もさらにサービス向上が期待できるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業理念作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を定めています。「家庭により近い環境を目指します。自分らしさを大切にします。地域に根ざしたホーム作りに努めます」を理念として、地域の中でその人らしく暮らせるように支援することを明記しています。理念はフロアに掲示し、職員は毎朝のミーティングで理念を唱和して、実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。(初詣、地域での買い物や秋祭りの鑑賞、会館のイベント利用、散歩の際の挨拶、飲食店での外食、学生の交流等)	地域自治会行事については、地域住民代表として参加している運営推進会議メンバーから案内をもらい、夏祭りや盆踊り等に利用者と共に参加しています。地域祭りの際にはお神輿や太鼓台がホーム前を通るなど、行事を通じての交流を続けています。また、近くにある市民会館での展示会や、日本舞踊観賞会等に利用者と共に参加して、地域の人々と交流をしています。防災安全対策については、引き続き地域消防団の協力を得ています。校区の中学生等が施設見学に来て、利用者と交流する機会もあります。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域との交流は十分果たせていない。 地域への働きかけ及び協力体制の整備が課題である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用状況やサービスの実際、課題、評価への取り組み状況等報告し、そこで得た意見等をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議の規程を定め、概ね2カ月に1回の会議開催に努めています。しかし、昨年はホームの事情により年4回の開催となっています。最近の会議では、職員が事業報告や利用状況報告、行事計画説明等を行い、家族間の交流、身体拘束が必要な場合の家族同意書の記載内容、虐待通報について、職員研修等を議題として熱心に話し合っています。会議メンバーには、利用者及び家族代表が参加しており、開催内容については詳細に記録を残しています。職員は会議で出された意見について、できるだけ早くホーム運営に反映するよう取り組んでいます。	ホームでは今後、年6回の運営推進会議開催を行う予定で準備しています。今後、取り組みの成果が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に事故報告書・入居者情報の提供を行うことで連携を図っている。	市の担当者からは、事業所の運営に関する助言やさまざまな情報の提供を受けています。ホームからは、事故報告や入居者情報の提供等を行い、対応困難な課題については、相談しながら進めています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会議で身体拘束は基本禁止の意識付けを行っている。エレベーター横にロック解除の暗証番号の張り出しをしている。外に出たい方は職員付添い外に出て頂き、付き添ってほしくない方は職員が後ろから様子を伺う等の対応をしている。	運営規程に「身体拘束の禁止」の項を設け、緊急やむを得ない場合を除き身体拘束を行わない方針を明記しています。ホームでは職員間で討議を行った結果、夜間のやむを得ない安全対策として、昨年から家族の了承を得て一部利用者のベッドに四方柵をしています。玄関には施錠をしていますが、利用者が生活している2階、3階のエレベーターは自動ロックになっています。利用者が、自動ロックを解除して外へ出るのは困難な状況です。利用者が外出を希望する際には、職員が同伴して外出支援をしています。	職員は身体拘束の必要性について再度検討を行い、ベッドに四方柵をしなくても利用者の安全が守れるよう、利用者心理を理解した支援に取り組む予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。エレベーターの施錠については、鍵をかけないケアの一環として、再度検討することが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者や虐待防止法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見・要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議に利用者・家族代表が参加して積極的に発言し、意見や要望等を出しています。家族が来られたら職員から声かけをするよう心がけ、意見や要望を出してもらうようにしています。また、日常的に利用者の希望や願いを聞き、サービス向上に努めています。苦情相談窓口を明示し、苦情相談受付箱を設置して、意見が出やすいようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員はフロア会議やミーティング等で意見を述べ、提案をする場を持っています。管理者は日常的に職員の声や要望を聞き、業務運営に反映するよう努めています。また、必要時には個別面談を行い、職員の考えを聞いたり助言したりしています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じてサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人と家族等が“その時”まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族を支援される一方の立場におかず、暮らしを共にするもの同士の関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	ホームに旧友や知人が訪ねて来られ、歓談したり、利用者にお花を提供されたりしています。職員は、利用者の馴染みの場所へドライブしたり、馴染みのスーパーで買物したり、外食したりする支援を行っています。利用者が希望される場合には、手紙や年賀状を出したり、電話をかけたりする際の支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過のフォローし、相談や支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。	利用者の生活習慣や生活歴を把握し、一人ひとりの得意なことや苦手なことに配慮した支援をしています。また、食事の好みを尊重し、副食を選べるようにしています。利用者が言葉で表現できない場合には、具体的に実物を示しながら選んでもらうようにしたり、しぐさや表情で意向を確認したりしています。さらに、継続して音楽療法に取り組む中で、利用者の笑顔や思いを引き出す効果も生まれています。	ホームでは、利用者の思いや願いをさらに細やかに把握し、より適切な対応を進められるように職員間で取り組む予定です。同時に表出困難な利用者心理を理解できるように、職員の育成も合わせて行う予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が寄りよく暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者・家族の意向を確認して介護計画書を作成しています。介護計画書は月に1回モニタリングを行い、3ヵ月を目途に見直しをして、サービス担当者と会議を開催し作成しています。介護計画書は職員間で共有し、実施した内容を記録のうえ、必要に応じて随時見直しをしています。家族と相談したり、かかりつけ医師や同法人管理栄養士、看護師にも相談したりして利用者本位に検討しています。	職員は、利用者が充実した日々を過ごせるように、会話が難しい利用者間のかけ橋になったり、レクリエーションを楽しめるように支援したりして、楽しみごとを共有できるようにするなど、さらに細やかな取り組みを行う予定にしています。今後、取り組みの成果が期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫を記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民会館への舞踊鑑賞などのイベントへの参加や地域からの訪問散髪も導入している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人、家族の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療がうけられるように支援している。	医療機関受診については利用者・家族の意向に添った支援をしています。また、利用者・家族の希望を確認し、協力医療機関の医師・歯科医師による訪問診療が受けられるようにしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日常の関わりの中で捉えた情報や気づきを必要に応じて小規模多機能所属の看護師や訪問の看護師や、訪問の看護師に伝え、相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人、家族と話し合いを行い、事業所としてできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチーム支援に取り組んでいる。	看取り支援をする方針はありませんが、重度化した場合の対応については、入居時に利用者・家族に十分説明をして了解を得ています。重度化した場合の対応として、特別養護老人ホームへの入居申し込みをしている利用者もおられます。医療依存度が高くなった場合には家族の意向を確認し、医師や看護師と相談しながら適切な療養の場を選択できるように支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年新人職員を中心とした消防署における救急講習の計画・実施を行っている。また会議にてシュミレーションで初期対応の判断で必要な事項を確認し、危機意識の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害等の災害時に昼夜を問わず、利用者が避難できる方法を全職員が身につけると共に、地域との協力体制を築いている。	運営規程に「非常災害対策」を明記し、年に2回以上、避難、救出その他必要な訓練を行う方針を明確にしています。昨年は防災避難・救出訓練を5月と12月に行い、消防署の協力を得ています。避難訓練は主に夜間の設定で行い、避難場所には2階の広々としたベランダを選び、現実的な救出方法を試みています。ホーム内には非常用飲料水、乾パン等の備蓄をしています。しかし、現在は賞味期限を考慮して入れ替えを行っており、保管量が十分とはいえない状況です。	管理者は備蓄について、利用者全員が2～3日飲食できる数量を保管する予定にしています。今後、早急な対応が望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者が傷つく言葉かけや強い口調がないかスタッフ間で確認・注意し合っている。一人ひとり人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ対応をしている。 個人情報の取り扱いに関しては契約時に書面を交わしている。	利用者一人ひとりを大切にした対応を心がけ、言葉使いや接し方については職員間で確認し合い、丁寧に対応するようにしています。個人情報についての取り扱いは、職員雇用時に秘密保持を義務付け、雇用契約事項としています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	日常生活の中で本人の思いや希望を表したり、自己決定できるように声かけしている。食事のメニューを伺ったり、その他本人から希望を必ず聞くようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の業務は決まっているが、利用者の気分や体調に合わせて業務を変更できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問散髪がある。希望時はカラーも行っている。衣類の汚れはすぐに着替えるようにして整容に気をつけるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの嗜好品、食べやすい形態を把握し、洗濯メニューから選んで頂いている。又、時には職員と一緒に献立を考え、準備や調理を行うことも取り入れている。	同法人特養厨房で作られた給食がホームに運ばれ、配膳をして利用者に提供しています。主食は利用者に合わせて食べやすく調整し、副食は好みのもので選択できるようにしています。職員は毎月給食会議を行い、利用者アンケートを実施するなどして、希望を確認し献立作りをしています。毎月1回実施している「ふるさと料理」や利用者の希望を聞き、利用者の前ににぎり寿司を提供する「出張寿司屋」は、利用者に好評です。週1回程度おやつやお好み焼き等、利用者の好みのもので作って味わい楽しんでいます。また、利用者の希望に添って外食を楽しむ支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分チェック表を活用して把握に努めている。一人ひとりの食事量が適量であるかを観ている。食事時間がずれる方への柔軟な対応もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔の清潔が保てるように、毎食後一人ひとりの口腔状態の確認や本人の力に応じた口腔ケアをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、必要物品の選定・見直し及び個々の能力に応じたトイレ誘導及び排泄介助を行っている。	排泄チェック表を活かし、利用者の排泄時間を想定して声かけをしたり、トイレ誘導をしたりしています。オムツ類は極力使わないようにして、トイレでの排泄を支援していますが、夜間にはポータブルトイレを活用するなどの対応もしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の影響や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週 2 回の入浴確保を基本とし、一人ひとりの状況、希望、タイミングにあわせて入浴を楽しめるよう支援している。又、ゆず湯、菖蒲湯等で季節感を味わって頂く工夫をしている。	週2回の入浴支援をしています。医師の指示で毎日入浴支援を行っていることもあります。入浴を好まれないという理由で1ヵ月程度入浴が実施されていない場合がありますが、シャワー浴等で清潔保持に努めています。ゆず湯、菖蒲湯等を準備して、季節を感じられる支援をしています。	今後は、入浴の機会を週3回程度に増やし、更に清潔の保持について検討してみたいかでしょうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息できたり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息できたり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に薬剤師からの薬の説明があり、内容不明時や処方について相談できる体制になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族・本人から生活歴を伺いスタッフ間で認識するようにしている。好きなものや楽しみを探して少しでも気分転換が出来るようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状況やその日の希望にそって、戸外に出かけられる、支援に努めている。 又、家族の希望協力により、外出、外泊も支援している。	公園や神社、近くの市民会館や池周辺の散歩、買物、外食等に出かけることが日常の外出支援です。利用者一人ひとりの外出頻度は違いますが家族の協力も得て戸外に出かけられるようにしています。また、日ごろ行けない場所には年間行事として出かけられるように取り組んでいます。重度化された場合や外出を希望されない利用者については、ホーム内で過ごされることが多くなっています。	外出を希望されない場合でも、楽しい経験が少しでもできるように工夫し、ドライブ等に誘ってみてはいかがでしょうか。重度化された場合でも、週に1回程度は外出できるように支援することが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり、使えるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(玄関・廊下・居間・台所・食堂・浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激(音・光・色・広さ・温度など)がないように配慮し、生活感を取り入れ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	3階建ての2・3階部分にホームがあり、2階には広々としたテラスと菜園を設置しています。利用者はテラスで地域の花火を観賞したり、菜園スペースで花を育てたりして楽しむことができます。居間や食堂、廊下は広くゆったりとして空調にも配慮しており、快適に過ごすことができます。トイレや浴室も広く使いやすく工夫しています。ベランダや窓からは、公園や田園、幼稚園などが一望でき、日当たりも良く開放感を味わうことができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア・廊下にソファや椅子を設置し、一人になれる居住空間を大切にしている。気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人や家族と相談しながら使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は全室に窓があり、明るく整頓され加湿器が備えられています。居室にはトイレや畳スペースを設置し、備え付けのタンスやロッカーもあります。職員は利用者が自宅から馴染みの家具等を持参されることを勧め、利用者は家族の写真、机、イス、タンス、衣装ケース・ハンガー、テレビ、時計、ぬいぐるみなどを持ち込み、住みやすく工夫していますが、中には利用者の都合により持ち込みの少ない居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		